

会派大樹 会派視察報告

7月7～8日、長崎県小値賀町に議会改革について行政視察を行った。人口2600人、議員数8人の町であるが、町全体が活気ある元気な町である。

町議会では、目標として「1 行動する議会」「2 町民と共にある議会」「3 政策を提言する議会」を掲げている。そして、町民と議会で「小値賀町基本構想及び基本計画（平成26年～平成35年）」を作成した。

計画は目標を1つと決め共通にし、政策の力テグリーを3つにまとめ、それぞれに議員2人と町民7人程で構成した部会制で検討を重ね作成している。

議会改革として、夜の定例議会開催や団体向けに「議会を語る会」や町民が5人集まれば議員が出向き市民と語る「あおぞら座談会」等を積極的に進行



長崎県小値賀町

っている。また、試行であるが定例議会で各議員の一般質問が終わると暫時休憩し、傍聴者に意見や質問の時間など、町民の町政や議会への関心度を高める挑戦を行っている。結果、議会改革とは、人口や議員数の多少に関わらず、目標を一つにし、議会がいかに開かれ市民に寄り添いながら共に挑戦することだと学ぶことができた。

総務文教委員 視察報告

総務文教委員会は、10月7日～9日にかけて、京都市立京都御池中学校、京都府城陽市、大阪府池田市を訪問し行政視察を行った。

京都御池中学校では、2つの小学校の6年生が中学校の校舎で、共に学習や児童会・生徒会活動などに取り組む施設併用型の小中一貫コミュニティ・スクールを視察した。「未来に輝く小中一貫コミュニティ・スクールの創造」を目標に掲げ、地域の方の力強い連携・協働により、読解力の育成を目指したカリキュラムの編成に力を入れ、学力は京都市内トップの成績を誇る。課題においては、本市と共通している点も見受けられた。

城陽市では、第二次城陽市情報化計画について視察した。近年のICTの著しい発展と、多様な社会経済環境に対応するための地域情報化政策である。市民や事業者の利便性向上のため、イ

ンターネットを利用して市税の申告ができるeL-TAXの導入や電子入札システムの導入、さらには、情報伝達ツールとしてSNSも活用されていた。池田市では、不登校支援について、公設民営のフリースクール「山の家」を視察した。NPOの独自性と機動性、柔軟性を生かした職員の勤務体制や時間に縛られない活動、また広いネットワークを活用した対応により、素晴らしい実績があがっていた。行政や教育機関、地域との連携により子どもたちの環境作りをする点の特徴である。すべてにおいて、有意義な視察であった。



京都府城陽市



京都御池中学校

編集後記

ラグビーW杯イングランド大会にて優勝候補の南アフリカに勝利した日本代表！3点差で迎えた最終盤に同点狙いのペナルティゴールではなく勝ちにこだわり、逆転可能なスクラムを選択し見事逆転勝利。感動と勇気を与えてくれました。試合後選手たちは「このために4年間やってきた。」「この4年間、これに全てをかけてきた。」と準備の賜物だと胸を張っていました。

事を成すには周到な準備とたゆまぬ努力が必要であるのだと再認識させられました。

議員も任期は4年間。春日市議会も全員で市民の皆様のための議会運営に努力してまいります。(かずひろ)



議会報編集特別委員会

- 委員長 高橋裕子
- 副委員長 白橋和博
- 委員 川崎英彦
- 委員 岩淵穰